



CONTENTS

- 02 地域での健康づくりを推進
第32回岩手県保健推進委員等代表者協議会
「総会及び研修会」
- 04 地域包括ケアを考える
岩手県地域医療研究会「春季集会」
- 06 29年度保険者支援方法を協議
市町村の主体的な健康分析を支援
平成29年度第1回岩手県国保連合会
保健事業支援・評価委員会

- 07 第2期データヘルス計画の策定ポイントを研修
演習で分析の視点を共有
国保・後期高齢者ヘルスサポート事業研修会
- 08 「岩手の保健」第219号 8月5日に発刊
——創刊70周年記念特集号。

今月の表紙
「夏の風物詩」
矢巾町

暑い日が続いた7月17日、「矢巾町夏祭り」取材。
当日はさんざ踊りをメインにステージショーやクイズなど、さまざまなイベントが繰り広げられました。また、多くの出店が並ぶ中、華やかな浴衣を着たかわいい女の子たちが、金魚すくいに挑戦していました。



第32回岩手県保健推進委員等代表者協議会「総会及び研修会」

地域での健康づくりを推進

岩手県保健推進委員等代表者協議会は6月14日、盛岡市「都南文化会館」で第32回総会及び研修会を開催した。県内各地から約480人が参集した総会では、全議案が承認され、任期満了に伴う役員改選で伊藤節子会長を選任したほか、保健事業に貢献した保健推進委員等の功績をたたえ表彰式が行われた。また、総会後に行われた研修会では、福島大学非常勤講師の岡田麻紀先生が実技を交えて講演したほか、県内2地区から活動報告が行われた。

岩手県保健推進委員等代表者協議会役員名簿

(任期：平成29年6月14日から平成31年度通常総会までの2年間)

地区名	市町村	組織職名	氏名	備考
盛岡	盛岡市	盛岡市保健推進員協議会長	伊藤 節子	会長
	岩手町	岩手町保健推進員協議会長	竹田 裕子	理事
	紫波町	紫波町保健推進員協議会長	瀬川 智子	理事
岩手中部	花巻市	花巻市保健推進員協議会長	杉原 典子	理事
	西和賀町	西和賀町保健委員代表	佐藤りき子	理事
	一関市	一関市保健推進員協議会長	千葉 京子	理事
胆江・一関	平泉町	平泉町保健推進員代表	千葉 裕子	理事
	釜石市	釜石市母子保健推進員代表	市川 淳子	理事
	住田町	住田町保健推進員協議会長	松田しずえ	理事
大船渡・釜石	宮古市	宮古市保健推進委員代表	鈴木 恵子	理事
	岩泉町	(未定)		理事
	久慈市	久慈市保健推進員協議会長	西 美代子	理事
久慈	洋野町	洋野町保健推進員協議会長	高村 房江	副会長
	二戸市	二戸市保健委員協議会長	田口 和子	副会長
	一戸町	一戸町保健推進員協議会長	八森百合子	理事

(表彰者は下表参照)

次に、協議会表彰が行われ、住民組織代表者協議会長部門と住民組織部門を合わせ、多年にわたり市町村保健事業に貢献した49人が表彰を受けた。表彰式では、住民組織代表者協議会長部門の久慈市協議会西美代子会長と、住民組織部門を代表して二戸市協議会の工藤ミナ保健委員に表彰状と記念品が授与された。

総会

伊藤節子会長を選任

(盛岡市保健推進員協議会長)

総会では、千葉京子一関市保健推進委員連絡協議会長が総司会を務め、岩手県保健推進委員等代表者協議会の佐藤勝子副会長が開会を宣言した。



あいさつする西美代子会長

会長は「27年度の岩手県市町村国保の特定健診受診率は43・5%となり、全国でも上位の結果となった。これは、皆さんがそれぞれの地域で健康づくりをサポートとしての役割を十分に果たしたことによるものと考えている。今後、保健・福祉・行政の施策と一体になり、地域住民の立場に立ったきめ細やかな活動を推進していこう」と呼び掛けた。

その後、総会は雫石町の松原れい子保健推進員を議長に選出し、28年度事業報告と29年度事業計画を原案どおり承認した。

また、任期満了に伴う役員の改選では、新役員の中から会長に盛岡市協議会の伊藤節子会長、副会長に洋野町協議会の高村房江会長と二戸市協議会の田口和子会長が選任された。

(新役員は左上表参照)

講演

やきとりじいさん体操を実践

引き続き行われた研修会では、福島大学非常勤講師でやきとりじいさん体操考案者の岡田麻紀先生が「自分らしく輝くために+10(プラス・テン)——こころとからだに笑顔を——」と題し、実技を交えて講演した。

岡田先生は「文部科学省の調査では、運動不足と感じている人が20歳以上で約75%おり、運動を継続できないという声をよく聞く」と述べた上で、考案したやきとりじいさん体操について触れ「体操を作りたいと思ったときに知

被表彰者の皆さん

(敬称略)

住民組織代表者協議会長部門

(久慈市) 西 美代子

住民組織職員部門

(宮古市) 野崎いく子

(二戸市) 工藤 ミナ

(松浦) 圭子

(山内) 弘子

(三浦) キヨ

(関根) 美幸

(三雲) 美幸

(長洞) 洋子

(野村) 朋子

(久保田) 修子

(岩見) 幸子

(鍛冶ヶ澤) 節子

(池田) 喜子

(三嶋) 知子

(神山) 美代子

(八重樫) 檀子

(中西) さつ子

(前野) タキ

(石宇) 妙子

(櫻庭) さち子

(菊池) ツヤ

(阿部) 和子

(中川) 文江

(滝沢市) 内藤 美和子

(中村) 敦子

(村上) あさよ

(中村) ナミ子

(徳田) ヤエ

(七ツ田) 千恵

(佐藤) ふくえ

(梅沢) 葉子

(阿部) 喜栄子

(倉本) 恵美子

(川向) 裕美子

(阿部) 信子

(小笠原) スミ子

(佐々木) 利恵子

(小笠原) さゆり

(七役) 陽子

(木村) 和子

(塚野) いし子

(南谷) 八重子

(小姓) 堂邦子

受賞おめでとうございます



「やきとりじいさん体操」を実践する参加者には笑顔があふれた

人から「やきとりじいさん」という曲を紹介され、歌詞を聞きながら体操をするとより元気になるほか、普段はあまり動かさない部分をふんだんに動かす体操となっている」と紹介した。ユニークな振り付けの同体操は、YouTube年間動画大賞2008を受賞している。

また、岡田先生は「私も運動不足の期間が長く続き、肥満の時期があった。この長年のストレスを解放して、変わるきっかけとなったのが運動だった」と話し、運動の効果として3点を挙げ「①病気になるにくくなる②メンタルヘルスや生活の質の改善③有酸素運動による脳の活性化」などに効果がある

が、運動を継続することでさらに効果が高まる」と説明した。

さらに、「運動不足を解消しようと思っても、時間が無い、疲れているなどの理由で先延ばしになりがちだが、そもそも私たちの体は本質的に動きたいと思っている。その本質を実現させることが運動不足の解消につながる。やきとりじいさん体操は、体がさらに動きたいと思うような振り付けになっ

活動交流

取り組みを情報発信

活動交流では、花巻市保健推進委員協議会の杉原典子会長と本会保健介護課の関川望美主宰を司会者に、県内2地区から事例発表が行われた。

「はまっぺけらいん かだっぺけらいん」でみんなが元気に！

—陸前高田市保健推進員の活動—
大船渡・釜石地区 陸前高田市保健推進員

代表 鈴木秋子



「はまっぺけらいん かだっぺけらいん運動（通称『はまかだ運動』）」は、行政や専門家だけではなく、住民同

士も気軽に集い、語り合う空間を意識的に持つことにより、心と体の健康増進や地域づくりにつながる大きな運動として取り組んでいる。

当市の保健推進員は現在115人で、「はまかだ運動」を実践しながら

ている」と話し、参加者全員でやきとりじいさん体操を実践した。

講師紹介

福島大学非常勤講師
岡田 麻紀さん

乳幼児から高齢者まであらゆる年代の運動指導に約20年間携わり、その実践と研究から得た美しく輝くための運動・体操を講演会や実技講座で伝えている。

自身の長年の肥満や心身の不調という経験を基に、誰でも笑顔で継続できる体操を考案。



人。各種検診の問診票等配布時の受診勧奨、健康相談や健康教室の広報活動などに取り組んでいる。

また、地区ごとに研修会を実施しており、28年度は①高齢者の食事②足腰の筋力アップ体操③認知症の人への対応④介護予防についてなどをテーマに開催した。

このほか、市内40箇所に介護予防教室があり、自分の住む赤前上組地区は、高齢者が元気で過ごしてほしいとの思いから、楽しみながら集まれる場所を「ひまわり会」と名付けて活動している。参加者は年々元気を増し、お互いを思いやる行動が増えた。

各種検診の問診票等を配布する際に、たくさんの地域住民に会うが、こ

心の触れ合いの拠点づくり

「介護予防教室「ひまわりの会」を通して—
宮古地区 宮古市保健推進委員

委員 久保田峰子

宮古市の保健推進委員は現在325



の活動を通し人とのつながりを大切にしながら、地域住民の健康づくりの手伝いを続けていきたい。

地域包括ケアを考える

岩手県地域医療研究会「春季集会」



岩手県地域医療研究会（会長・磯崎一
太洋野町国保種市病院長）は6月24日、
国保会館で春季集会を開催した。県内の
国保関係者、岩手県議会議員、市町村医
師養成事業修学生など約160人が出席
した春季集会では、地域包括ケアに関す
る講演や意見発表が行われ、フロアの出
席者を交え活発に意見交換を行った。



真剣に講演を聴講する市町村医師養成事業修学生の皆さん

講演

ポイントは「つながり」

冒頭、あいさつした磯崎一太会長は
「本研究会は60周年を迎えようとしてい
る。多くの先輩が地域医療に研さんを重
ね、中でも春季集会是、会員だけではな
く多くの関係者も出席し時代に即した医
療問題等を勉強する場として開催してき
た。本日は地域包括ケアの実現に向け、
広い視野を培えるよう一緒に勉強してい
こう」と呼び掛けた。

続いて厚生労働省の武田俊彦医薬・生
活衛生局長が「地域包括ケアと病院の未
来」と題し講演した。（以下、講演要旨）
現在、国では医療提供体制の改革が進
んでいる。基本的な考え方は、社会保障
制度改革国民会議の報告書（平成25年8
月）に記されており、同時期には日本医
師会と4病院団体協議会の合同提言も出
された。

これらには、かかりつけ医やかかりつ
け薬局、病院なども加えた地域包括ケア
のコンセプトが示されている。国と医療
団体の改革の方向性が一致しており、共
通の認識であることが大きな特徴。これ
により、医療法、診療報酬、医療介護連
携関係法制度等が変化している中、地域
における医療機関の役割も大きく変化し
ている。病院では「退院調整」
だけではなく、「退院支援」に
よるベッドコントロールの確実
な実施が地域包括ケアの実現に
つながる。



厚生労働省の武田俊彦医薬・生活衛生局長

そもそも地域包括ケアとは、地域で生
活する人の目線。①つながり②寄り添い
③包括的―が理念であり、顔の見える関
係や町づくり、予防・健康づくりとも関
連し、地域を主体としてさまざまな視点
で考えなければならない。

そして、地域包括ケアのポイントは、
病院完結型から地域完結型の医療に変わ
ること。全てがつながりを持つため、単
独では役割を完結できない。

中でも、市町村では30年度までに地域
支援事業の実施が義務付けられ、在宅医
療・介護連携の推進が求められている。
今後は市町村に在宅医療・介護連携の担
当者が配置され、医師会や病院団体と協
議しながら地域包括ケアシステムを構築
する。したがって、地域包括ケアはつな
がりの中でしか実現できない。

地域のニーズに合った医療を提供する
ためには、ニーズをバックアップする病
院や地域包括ケア病棟などの機能が必要
になるが、地域包括ケアの原点は地域医
療と考える。

意見発表

「顔の見える関係」が鍵

講演後には「地域における地域包括ケア病棟（病床）の役割」をテーマにパネルディスカッションが行われ、八幡平市国保西根病院の瀧山郁雄院長を司会者に3人のパネラーが意見発表を行った。

「地域包括ケアにおける

中津川病院の役割」

中津川病院 高橋進 院長



当院は一般病床51床1病棟の小規模病院。回復期の患者を迅速に受け入れ、自宅退院への橋渡しのほか、地域の無床診療所と連携し、軽症―中等症患者を受け入れるなど、地域に根差した優しい医療の提供を目指している。

このような中、26年度の診療報酬改定で新設された地域包括ケア病棟は、当院が目指している病院像と一致した。

当院の特色はリハビリと在宅医療であり、患者のADLの向上は在宅復帰への近道となる。リハビリスタッフの充実が地域包括ケア病棟の重要な要素と考えている。

また、訪問診療は介護や医療スタッフなどのコミュニケーションの場となっており、日頃から多職種で顔の見える関係性を構築していることで、介護環境や施設への入所検討など、家族との話し合いもスムーズに進めることができている。

「盛岡市立病院における

『地域包括ケア病棟の運営』について」

盛岡市立病院 佐藤輝男 事務局長



当院では、平成26年11月から地域包括ケア病棟を導入している。現在、同病棟の入院患者は、糖尿病・代謝内科、整形外科、神経内科の3科で82・2%を占めている。

この間、一般病棟との使い分けや包括の考え方、平均在院日数の短縮など、さまざまな課題があったが、院内研修会や意識改革、ベッドコントロールの徹底などの対策を行ってきた。

地域包括ケア病棟の位置づけは、生活の場に戻ってもらうための病棟と考えて

いる。当院は大規模病院が複数存在する保健医療圏に位置しているが、地域の医療機関や介護施設などの要望に応じながら、患者の退院後も地域での生活を見据えた院内多職種協働と、地域での生活を支える地域内多職種協働を行いながら、地域包括ケアシステムを支える病院として医療を提供していきたい。

「町立無床診療所における在宅医療の

現状と包括ケアとの関わりについて」

国保金ヶ崎診療所 阿部俊和 所長



当診療所は、平成18年6月に病院から診療所に変わり、これを契機に無床となった。

これにより、入院施設がなくなった町内では、在宅医療の重要性が増し、28年度は約80人の患者に訪問診療を行い、このうち約20人を在宅で看取った。

在宅医療を行う上で、周辺病院との密な連携は必須である。さらに、迅速な介護認定のためには、行政との連携も重要になっている。

地域包括ケアに係る当診療所の役割は、主に訪問診療や訪問歯科診療、訪問看護のほか、行政との連携による介護保険主治医意見書の作成などがある。今後は各種介護福祉関係の委員会や会議への参画により、顔の見える関係の構築がポイントになると考えている。

全体討議で意見交換

意見発表終了後、助言者に講師の武田局長を交え全体討議が行われた。

この中で、武田局長は「厚生労働省の統計データを見ると、高齢化の影響により入院患者が増えているように見えるが、入院総日数と外来総日数は減少している。したがって、病院を現状のまま維持しようとするのではなく、地域に空きが出る。医療の変化への対応として地域包括ケアは理想形。医療のニーズが変わっていることに気付いてほしい」と助言した。



29年度保険者支援方法を協議 市町村の主体的な健康分析を支援

本会に設置されている保健事業支援・評価委員会は、国保保険者が実施するレセプト・健康情報等を活用した保健事業がPDCAサイクルに沿って効率的・効果的に展開することができるよう支援している。



あいさつする保健事業支援・評価委員会
坂田清美 委員長

本会は6月5日、国保会館で平成29年度第1回岩手県国保連合会保健事業支援・評価委員会を開催した。

委員会の冒頭、坂田清美委員長は「平成30年度から国保の財政運営が県に移管しても、各市町村が主体的に分析を深め、本当の意味での脳卒中予防や糖尿病重症化予防の実施方法を考える必要がある。人的にも予算的にも限りがある中、職員が効率的に働きやすい環境になるよう、市町村が言いにくいことを代弁して発信することも保健事業支援・評価委員会の役割の一つと感じている」と述べ、「本日は30年度以降に向け実際に効果がある方法を議論したいと考えているのでよろしく願います」とあいさつした。

保険者の担当者に直接助言

続いて、坂田委員長を座長に選出して協議が行われ、事務局から28年度国保・後期高齢者ヘルスサポート事業報告を行った。

委員会等の開催状況は、委員会を5回開催し、このうち4回は保険者の国保・衛生部門担当者が同席し、直接助言した。

また、支援保険者を対象に委員会の

傍聴を可能としたところ、2回の委員会に4市町が参加したほか、委員会の参加準備としての打ち合わせ会を実施した。

14保険者から支援希望

次に、29年度の保険者支援方法を協議した。

29年度国保・後期高齢者ヘルスサポート事業の支援希望調査結果では、14保険者から支援希望があり、データヘルス計画策定支援は14保険者となっている。そのうち、1保険者は個別保健事業の評価も行う。

支援方法はヒアリング、助言、事務局による支援の3種類とし、データヘルス計画の策定支援では、現状分析や

岩手県国保連合会保健事業支援・評価委員会委員 任期：平成28年4月1日～平成30年3月31日

(敬称略)

職名	氏名	備考
委員長	坂田 清美	岩手医科大学衛生学公衆衛生学講座教授
副委員長	ティー キャン ヘン Tee Kian Heng	岩手県立大学総合政策学部教授
委員	松川 久美子	岩手県立大学看護学部講師
委員	田沢 光正	オフィスたざわ(株)代表 健康づくり総合アドバイザー・歯科医師
委員	梶田 弘子	岩手県環境保健研究センター保健科学部長
委員	豊間根 美恵	岩手県保健福祉部健康国保課主査



保険者支援に向けた関係機関との連携について活発に意見交換した

計画に盛り込む事業内容のヒアリングと計画案に対する助言などが行われる。また、個別保健事業の評価では、保険者が提出する資料をもとに委員会から助言が行われることが示された。

なお、支援種別に関わらず、支援を希望した保険者は全ての委員会を傍聴することができる。さらに、各保険者の提出資料及び委員会の助言要旨が送付される。

このほか、岩手県保健福祉部健康国保課の湊俊哉主任主査から国保制度改革と保険者努力支援制度に関する説明があり、第1期データヘルス計画の支援を踏まえ、今後の保険者支援に向けて、マンパワー不足や関係機関との連携等について、活発な意見交換が行われた。

第2期データヘルス計画の 策定ポイントを研修

演習で分析の視点を共有

国保・後期高齢者ヘルスサポート事業研究会

本会は6月30日、国保会館で国保・後期高齢者ヘルスサポート事業研修会を開催した。市町村などの保健事業担当者約80人が出席した研修会では、第2期データヘルス計画の策定に向けた講演や演習が行われ、出席者は同計画の策定ポイント習得に向けて研さんを積んだ。



あいさつする国保連合会
村田保夫 保健介護課長

冒頭、本会の村田保夫保健介護課長は、「データヘルスとは、レセプトや健診等のデータを活用し、効果的・効率的に保健事業を行うことで、健康寿命を延伸させる構想である。医療費の適正化につなげていく側面もあり、第2期のデータヘルス計画は、保険者努力支援制度でも計画の策定や実施状況が評価指標のひとつとなっている。研修会により、今後の第2期計画の策定に向けて理解を深めていただきたい」とあいさつした。

データの原因―結果を意識

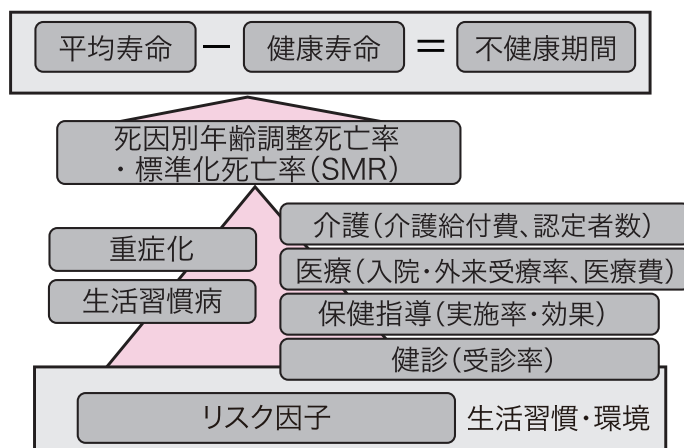
次に、国立保健医療科学院生涯健康研究部の横山徹爾部長は「自治体における生活習慣病対策推進のための健診・医療・介護等データ活用マニュアル」を基に講演を行った。

横山部長はデータを読み解く手順として「最初に各種データの上下関係（原因―結果）を意識すること。最上位の指標である平均寿命・健康寿命を規定する要因として死因別死亡率等があり、これらは、罹患・受療状況やリ



講演する国立保健医療科学院
横山徹爾 生涯健康研究部長

ポイント：指標の相互関係を理解する



出典「自治体における生活習慣病対策推進のための健診・医療・介護等データ活用マニュアル」

スク因子の影響を受け、その背景には生活習慣や社会環境がある。上位の指標で問題が見つかった場合、その原因は下位の指標にあるはずだと考えながら、データを見ていくことが重要である」と述べた。（右図参照）

また、横山部長は「医療費や健診データは年齢の影響を受けるため、分析に使うKDB（国保データベース）システムのデータは年齢調整が必要である」と説明した上で、「医療費の分析では、件数が少ない疾患は無理に解釈しないように」と注意を促した。

健康課題「見える化」を演習

その後、出席者は年齢調整したモデル自治体のデータを使って演習を行った。

演習では、個人作業で分析を進めた後に、グループごとに分析の視点を共有。分析結果を1枚のワークシートに整理することで、地域の健康課題を「見える化」させた。

出席者からは「具体的な演習で参考になった」「他の参加者の見方や意見を聞くことができ、勉強になった」などの感想が寄せられた。



「岩手の保健」第219号 8月5日に発刊

(主な内容)

創刊70周年を迎えて

岩手県国民健康保険団体連合会理事長 ……谷藤裕明

創刊70周年に寄せて

岩手県知事 ……達増拓也

特別寄稿

保健医療特講ゼミ

—医師と患者のありよう— (5)

日本公衆衛生学会名誉会員

・元札幌医科大学教授

……前田信雄

地域に生きる保健活動

ブックスタート事業に取り組んで

平泉町保健センター主査保健師

……菅原優香

シリーズ保健師を訪ねて^⑱

わがまちの保健師の現場から

花巻市健康づくり課の巻

……編集部

特別寄稿

発達障がい外来から

子どもの特性の理解と対応 (2)

みちのく療育園副施設長 小児科医師……川村みや子

創刊70周年記念特別寄稿

国保と保健ひと筋の菊地武雄

日本公衆衛生学会名誉会員

・元札幌医科大学教授

……前田信雄

創刊70周年記念

「岩手の保健」七十年の軌跡

……編集部

創刊70周年記念特集号。



8月の行事予定

8日	二戸地区協議会事務研修会 (税務収納)	(二戸市役所)
17日	柔整審査会	(国保会館)
	再審査部会	(国保会館)
18日	審査委員会 (～23日)	(国保会館)
	交通事故弁護士相談	(国保会館)
19日	地域医療研究会第11回現地研究会 (～20日)	(宮古市・グリーンピア田老)
21日	KDBシステム操作研修 (～23日)	(国保会館)
24日	岩手県国民健康保険フォーラム	(盛岡市アイーナ)
25日	介護給付費等審査委員会	(国保会館)
29日	障害者総合支援法関係業務運営協議会	(国保会館)
30日	国保盛岡地区協議会保健活動部会研究発表	(岩手町)
31日	第1回岩手県保険者協議会	(国保会館)

保険者へのレセプト公開日は8月4日です

らんどあるつと

随想 地域医療研究会会長就任のあいさつ

洋野町国保種市病院 院長 ……磯崎一太

診療所の窓から 住民と地域の魅力で、まごころ動機をしています

奥州市国保まごころ病院 副院長 ……伊藤正博

国保直診だより 大震災からの復旧

宮古市国保老診療所 事務長 ……中坪清見

岩手の峠道を歩く^⑭

国境峠・ノソウケ峠を訪ねて

—北上山地北部の峠を歩く—

元岩手県立釜石南高等学校校長 ……那須光吉

健康エッセー^⑳

患者から健常者に戻って思うこと (その4)

一点と線—

一関市みのる法律事務所所長 弁護士 ……千田 實

編集後記

先日、平成29年度「第34回国保連合会広報誌コンクール」が国保

中央会で行われ、本誌「情報国保連」が努力賞をいただきました▼この間、本誌の制作にご協力いただきました(株)五六堂印刷の皆さん、励ましの言葉とご指導いただきました諸先輩方にこの場をお借りし感謝申し上げます。ありがとうございました▼さて、8月を迎え、いよいよ夏本番ですが、夏と言えばスイカ。滝沢市では特産「滝沢スイカ」の収穫が最盛期となっています。同市は昼夜の寒暖差が大きく、火山灰が降り積もった水はけの良い土壌がスイカ栽培に適しているとのこと▼また、同市の農園「アトファーム」では、滝沢スイカを使った炭酸飲料「たきざわスイカスパークリング」を発売。甘さ控えめの仕上がりで、強めの炭酸が口当たり爽快です▼今年は夏季限定3千本を販売するとのことですが、夏らしくすっきりとした味わいをまた楽しみたいです。(熊谷)